



ひょうじゅんがっせいおでいほう  
標準活性汚泥法



標準活性汚泥法は反応タンクの底部から空気を送り込み、活性化した微生物により、汚水中の有機物を処理する、現在多くの下水処理場で行われている方法です。

微生物は反応タンクで汚水をきれいにした後、最終沈殿池で沈殿し、汚水処理に必要な分だけの微生物を反応タンクに戻します。この過程を繰り返すことで絶えず水をきれいにしています。

さらに、津田沼浄化センターでは反応タンク前半の空気の量を絞り、疑似嫌気状態にして、リンの除去を行っています。